

# 会 議 録

会 議 名	第4回 野田市生物多様性のだ戦略市民会議				
議題及び議題毎の 公開又は非公開の別	(1) 自然環境調査の実施状況 (非公開) (2) 社会環境調査の実施状況 (公開) (3) 企業等委員への個別ヒアリングの実施状況 (公開) (4) 今後の進め方等について (公開)				
日 時	令和3年4月9日 (金) (書面による審議を行った日)				
書面による審議を 行った委員の氏名	会 長 長谷川 雅美 副会長 茂木 康男 委 員 朽津 和幸、田中 利勝、新保 國弘、田中 勝美、 柄澤 保彦、土屋 守、黒川 茂、染谷 幸夫、 香西 陽一郎、鈴木 哲雄、町田 常雄、梅澤 一久、 柳澤 朝江、岡田 壽				
欠 席 委 員 氏 名	委 員 金丸 治子				
議 事	<p>第4回野田市生物多様性のだ戦略市民会議の開催は、新型コロナウイルス感染症対策のため、書面による審議とする。</p> <p>【発 送 日】令和3年3月26日 (金) 【締 切 日】令和3年4月9日 (金) 【とりまとめ】令和3年4月26日 (月)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="padding: 5px;">提出あり</td> <td style="padding: 5px;">提出なし</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">16</td> <td style="padding: 5px;">1</td> </tr> </table> <p>なお、書面により頂いた意見は、第5回会議に反映させるため概要のみ記載する。</p>	提出あり	提出なし	16	1
提出あり	提出なし				
16	1				

議題(1) 自然環境調査の実施状況(非公開)

《事務局》

秋季の調査結果(速報)のまとめであることを説明

議題(2) 社会環境調査の実施状況(アンケート調査の実施概要)

《事務局》

市内小学5年生と保護者を対象としたアンケート調査の実施概要について説明

《委員》

すばらしい取り組みであると思う。アンケートやその参考資料は、小学5年生だけではなく、インターネット上や市の施設等で他の方々にも配付可能とし、アンケート結果も受け付けてはどうか。

《副会長》

アンケート結果が楽しみである。利便性のみが求められる今、子供たちに生物の生き立ち、その役割等に関心を持ってもらうチャンスになると良い。

《委員》

アンケート調査については、自然環境に対する意識の変化などを見る上で継続アンケートは必要である。アンケートの参考資料については、人間を含む生物としての生態的基本として、植物は自ら栄養分を作り自身の生存のために使用することができるが、動物は植物によって生存していること、生態系の大原則を書き加えた方が良い。

《委員》

アンケート結果から地域の特性が分かると良い。

《委員》

アンケート結果を、今後の公園整備に利用したい。

《委員》

アンケートに写真があり、分かりやすい。

### 議題（3） 企業等委員への個別ヒアリングの実施状況

#### 《事務局》

企業・大学との生物多様性に係る連携を検討するに当たり、企業・大学関係者の委員に個別ヒアリングを実施したものを、まとめたものであることを説明

#### 《委員》

無理のない範囲で、こうした情報を野田市のホームページから広報することで、生物多様性に関する広報活動に資すると思う。

#### 《委員》

生物多様性の戦略の策定後、施策に企業として資金援助、人的等具体的にどのような支援が可能か考えられると良い。

#### 《副会長》

大気汚染の改善に始まり、プラスチックゴミの問題等、世界でも特に企業等が関心を高めており、これらを解決する、させるために消費者も便利さだけを求める意識を変える必要を感じる。

#### 《委員》

資料の中で、企業において「危険分散の役割という視点での利用・活用は可能と思われる」との意見があった。

種類により生育環境が異なるので1箇所にとりまて保護・保全は難しく、希少種については複数箇所での保護・保全をすることにより絶滅のリスクを減らせると思うので、今後の戦略の中で考えられると良い。

#### 《委員》

東京理科大の理窓会記念自然公園は、1990年代と比べると植物種が減少してきて、スキに埋もれるように生育している草原性のタチフウロなど、数種が絶滅したものと思われる。

小面積ではあるがかつての北総台地の草原の面影が消えつつあるように感じる。しかし

ながら市内ではほかにススキ草原が見られず、コバノカモメヅルなど此処だけに見られる種も多く、多様な環境がある貴重な場所であると感じている。

《委員》

今後、行政、企業、大学の連携した取り組みを行うことは重要と考える。

《委員》

ちば東葛農業協同組合が目指している無農薬、減農薬は大変なことと思う。市民（近隣の市民を含めて）に目指していることを理解してもらうことが必要と考える。宣伝、広報をもっと強く発信していけると良いと思う。

《委員》

東京理科大の理窓会記念自然公園というすばらしい場所は、大学生と市民のふれあいの場として、これからも期待できると思う。公園内の蓮池では、学生が田んぼ・池の整備、植生調査に参加している。もっとこの活動を知ってもらいたいと思う。

#### 議題（４） 今後の進め方等について

《事務局》

今後の進め方及びのだ戦略の見直し状況を野田市ホームページへ掲載することについて説明

《委員》

大学の講義で、学生に野田市の生物多様性に対する取り組みを紹介したところ、興味を持つ学生が多かった一方、野田市に在学あるいは在住しているにもかかわらず、こうした取り組みについて全く知らなかった学生もいた。野田市に在住、在学、在勤の市民が、常に多様な情報に触れることができるような工夫を検討してほしい。

《副会長》

この事業は、物事に関心を持つ子供たちに、生きるためには身のまわりの多くのものが関わり合いながら成り立っていることを知る機会として、時間をかけながら続けることが成功への道と考える。

《委員》

「生物多様性のだ戦略」について、ホームページの閲覧回数が多い「コウノトリ放鳥情報」の中に作成することは関連事項としてのアクセス増加が期待され、市民だけでなく広く一般に野田市の保護行政を知ってもらうためにも大いに役立つと思う。

《委員》

情報公開は積極的に行った方が良い。

《委員》

野田市ホームページへの掲載については良いと思う。

《委員》

市民への広報の中で、野田のわくわくいっぱい植物図鑑（わぴちゃん）の教材との連携もあると良い。

その他

《事務局》

今後の「生物多様性のだ戦略」策定に向けての意見

《委員》

市として戦略を策定するからには、市民が日常的に様々な活動を行う際に参考にできるよう、広報活動が極めて重要と考える。教員の研修等、学校教育との連携も重要である。

《委員》

転作は、田んぼに頼る生きものを減らしてしまう。生物の多様性は失われ優良な調査地のみが残るだけになる。水田環境の劣化はコウノトリの生息をしづらくしているので、解決方法を検討できると良い。

《委員》

策定後、具体的に何ができるか検討した方が良い。

《委員》

環境調査を進めて結果をまとめるに当たり、どの程度のものにまとめるのかにより内容は大きく変わってくると思うので、調査結果の扱い方には考慮した方が良い。

《委員》

市民の理解と協力は不可欠ですので、あらゆる機会を捉えて周知することが大事である。

《委員》

生物多様性の戦略は、街づくり、SDGs、地球温暖化対策と調和する方向性を示すのが良いと思う。

《委員》

戦略を見直している中でも、クビアカツヤカミキリやカシノナガキクイムシ等の現状対応の情報が欲しいと思う。

《委員》

野田市の生物で消えていく生物、増えていく生物など分かりやすい展示をすることも良いと思う。できれば野田市役所だけでなく、イオン等の店舗でも展示した方が見てくれる方が多くなると思う。

《委員》

江川地区はコウノトリだけでなく、在来の樹木、野の花が大変豊かである。市民にもっと伝えたい。また、野田市民だけでなく、流山市、柏市、我孫子市、松戸市、船橋市、東京の方に宣伝した方が良い。他市の方からの評価が高いことが、野田市民も野田市の良さに気づくということもあると思う。

《会長》

表現方法を勉強する必要はあるが、その上で市自らが発信していくのは良いと思う。詳しい人が発信することで関心をもってくれる人も増える。

以上